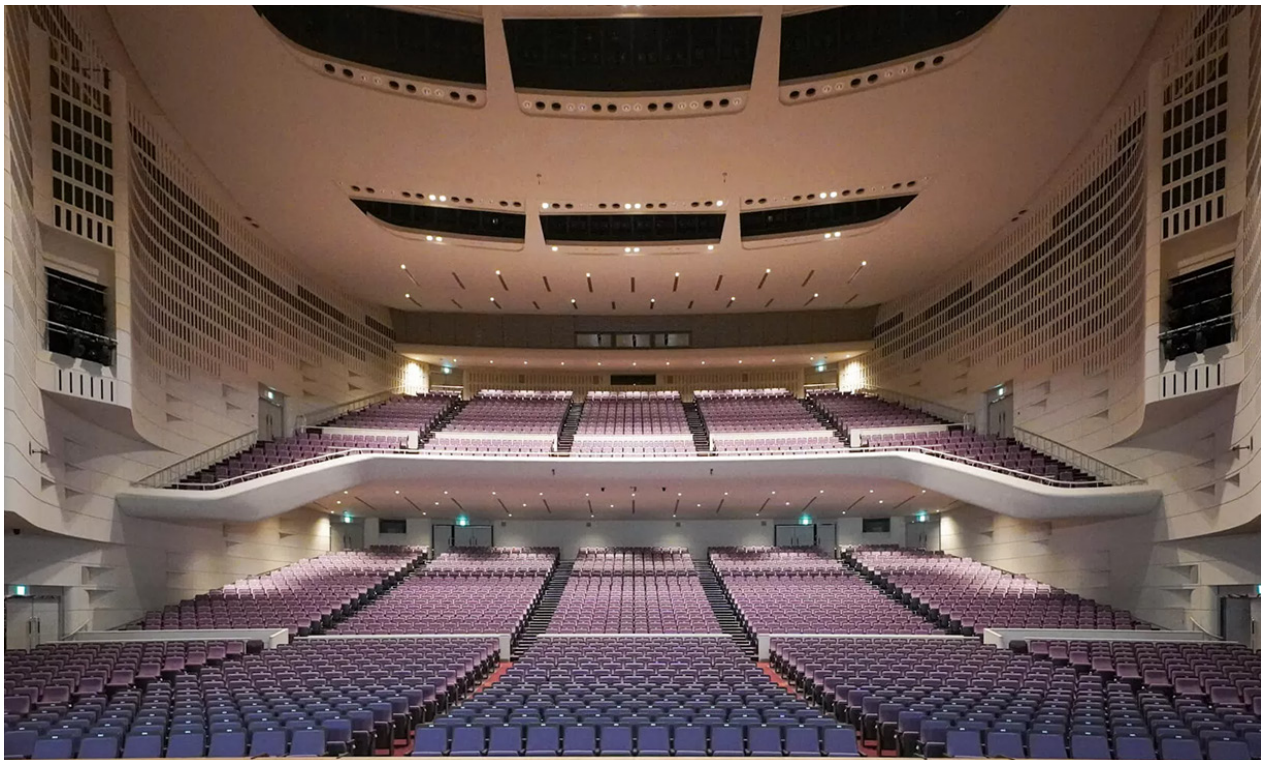




大宮ソニックシティホール 大ホールと小ホールの音響システムが L-Acoustics によって刷新されました



大ホール

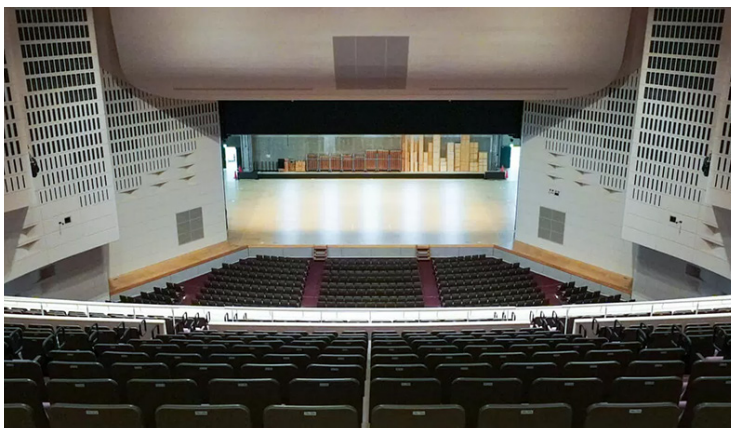
埼玉県大宮駅から徒歩3分に位置する「ソニックシティ」は、大小の音楽ホール、国際会議室、展示場、市民ホール、大小会議室群、都市型ホテルを備えた総合コンベンション施設です。

その中心施設の一つである「ソニックシティホール」の大ホールと小ホールの音響システムが、L-Acoustics によって全面的に刷新されました。

1988年にオープンしたソニックシティホール棟は、2021年7月から2023年2月にかけて長期間の改修工事が行われました。主な目的は天井の耐震補強工事でしたが、この機会に音響システムの更新も実施されました。大ホールではL-Acoustics KARA IIを中心としたシステムに、小ホールではA10を主体としたシステムにそれぞれアップグレードされました。



左：長尾 修氏 右：齊藤 誠氏



プロセニウム：KARA II × 10、SB18 × 4

音響システムの更新について、ソニックシティを管理する株式会社シグマコミュニケーションズの音響担当の統括チーフ 齊藤 誠氏と、同社音響担当 長尾 修氏にお話を伺いました。

大ホール

客席数2505席の大ホールは、クラシック、ポップス、ロックコンサート、ダンスイベントなど多用途に対応できる施設です。(残響可変装置によって残響時間を1.5秒から1.8秒に調整可能)

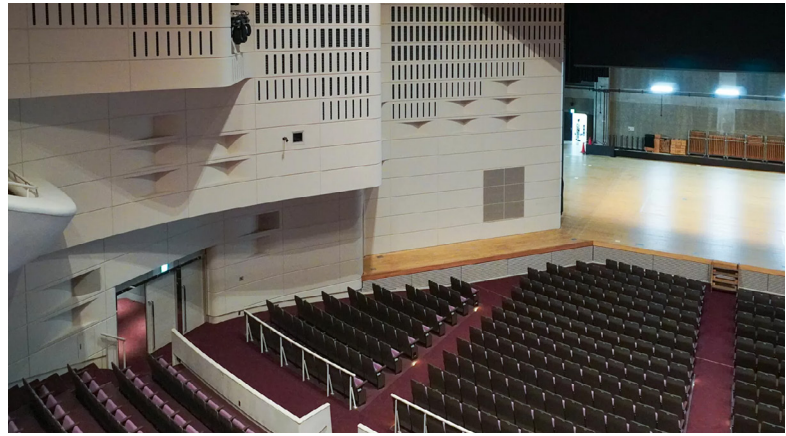
以前はプロセニウムからの音が2階席奥に届きにくく、1階付近から2階席に向けたスピーカーを追加設置して対応していました。しかし今回の天井改修の際に、プロセニウムの開口部を広げることができ、内部に納めたKARA IIが2階席奥まで十分に音を届ける設計が実現しました。



長尾氏は「開口部が広がったとはいえ、プロセシウム内のスペースは限られており、収まるサイズで十分なパワーを持つスピーカーが求められました」と振り返ります。また斎藤氏も「特にプロセシウム部分の設計には苦労しました」と語ります。

改修前は複数のスピーカーブランドが混在していましたが、今回すべてL-Acoustics製品で統一されたため、**Soundvision**を使用した音響設計が容易になり、結果的に会場全体で均一な音響環境が実現しました。

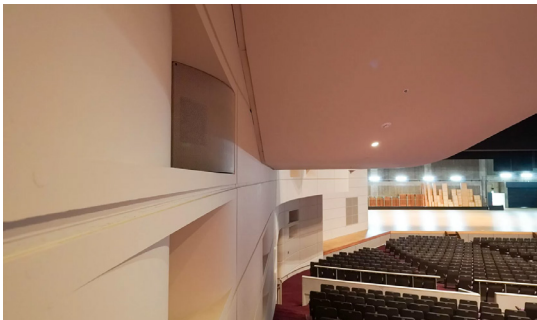
長尾氏は「以前に比べて音が繊細で伸びやかになった」と評価しています。



サイドスピーカー：KARA II × 10、SB28 × 2



ステージフロント：X4i × 8



ウォールスピーカー：X4i × 18



固定はね返りスピーカー：X15 HIQ × 2



音響室に設置されたアンプリファイドコントローラー：LA4X × 10、LA2Xi × 4、LA12X × 1

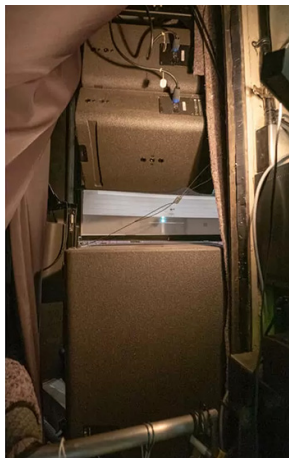


小ホール

小ホール

客席数496席の小ホールは、講演会、学会、ピアノ発表会などに利用される多目的ホールで、同時通訳設備も完備しています。

従来、プロセニアムはL-Acoustics KIVA × 5、KILO × 1という構成でしたが、音楽演目で低域のボリュームが求められるため、今回の更新でA10 FOCUS × 1、A10 WIDE × 2、KS21 × 1に刷新され、音の充実が図られました。



サイドスピーカーの背面開口部



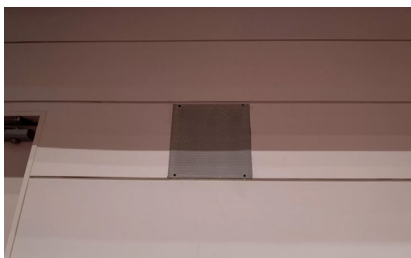
プロセニアムスピーカー：A10 FOCUS × 1、A10 WIDE × 2、KS21 × 1
サイドスピーカー：A10 FOCUS × 2、A10 WIDE × 2、KS21 × 2

「スピーカーの本数が減ったため、以前と同じようにカバーできるか不安もありましたが、実際に音を聴くと全く問題ありませんでした。以前より音の重心が下がり、芯のあるサウンドに仕上がっています」と齊藤氏は語ります。

また長尾氏は「ステージの額縁を埋めるような音圧を感じることができます」と評価しています。

今後の展望

今後の展望について「次は大ホールのカラム部の開口部を広げたい」とお二人は述べています。今回の約1年半に及ぶ改修により、音響、快適性、安全性が大きく向上したソニックシティホールは、埼玉県都心部の旗艦ホールとして、さらなる飛躍が期待されています。



ウォールスピーカー：X4i × 6



固定はね返りスピーカー：X12 × 2



ステージフロント：X4i × 4

大宮ソニックシティ <https://www.sonic-city.or.jp/>